雲南病院だより

三刀屋高校地域産業研究実習

10月4日（水）から6日（金）にかけて実施された「三刀屋高校地域産業研究実習」を当院でも開催しました。この実習は市内外の各事業所で職業体験を行いながら、それぞれが設定した課題（テーマ）を解決するために職員と意見交換等を行っていくものです。

当院では4人の高校生が「島（長崎県の離島）での取り組みを雲南市に取り入れて医師不足を解決できるのか？」というテーマで実習を行いました。

1日目は島根県（県医師確保対策室）と雲南市（大谷 順（おおたにじゅん）院長）の医師確保の取り組みについて説明を聞き、2日目は病院ボランティア体験と当院勤務医・研修医・医学生との意見交換を行いました。3日目には看護体験、沖縄の離島から来た医師との意見交換などを行い、とても密度の濃い3日間となりました。

4人が医療についての課題を解決するため、積極的に体験や意見交換を行う姿を見ると、とても頼もしく感じました。12月には発表会が予定されており、テーマ（課題）についてどのような報告がされるのか、とても楽しみです。

2017年 雲南市中学生『夢』発見ウィークを行いました！

10月11日（水）から13日（金）にかけて、中学生のキャリア教育プログラムとして実施されている『夢』発見ウィークを行いました。中学生の皆さんが将来の目標を考える上で参考になるよう、当院では市内中学生10人の受け入れを行いました。

初日は新しい病院の工事現場見学と、縫合体験、高齢者体験をしてもらい、午後からは保健推進課とリハビリテーション科で現場体験をしてもらいました。2日目には栄養管理科と薬剤科、放射線科と検査科の現場体験を行ってもらい、3日目には看護師現場体験をしてもらいました。また、3日目の午後からは、病院ボランティア「てごっ人（と）」の皆さんと清掃活動を行ってもらいました。

開始初日にはやや緊張気味だった表情も、2日目には少しずつ表情が和らぎ、最終日には笑顔で患者さんやスタッフの問いかけに答えるなど、とても楽しそうに体験を行っていました。一方で、縫合セットを用いた縫合体験や、検査科での実物を用いた現場では、一人ひとりが真剣な面持ちで取り組んでいました。

また、「薬剤科で薬の濾過（ろか）作業をさせてもらい、貴重な体験をさせてもらいました」「看護師の忙しさが分かりました。大変だけど〝ありがとう〟って言ってもらえて、とても嬉しかったです。将来、医療関係の仕事に就けたらなと思います」といった感想が聞かれ、最終日のボランティア美化作業では一人ひとりが主体的に行動するなど、とても一体感を感じた3日間となりました。

病院で働く医療のプロフェッショナル

病院では、治療を行う医師や看護師をはじめ、さまざまな職種のスタッフが働いています。その多くは専門性の高いスキルや知識が必要で、国が認める国家資格を有していなければ就けない職種がほとんどです。日進月歩で現代医療に携わる仕事であるために、常に専門知識を磨く努力をする必要があり、高度な専門技術に加えて、コミュニケーションスキルや人間性なども求められます。また、一人の患者さんに複数の医療スタッフが連携して、治療やケアを行う「チーム医療」にも取り組んでいます。

Interview 放射線科の仕事について

～診療放射線技師・小豆澤（あずきざわ） 真奈美（まなみ）（2年目）～

なぜ診療放射線技師になろうと思ったのですか？

高校時代に資格が必要な職業に就きたいと考えていたところ、病院勤めの父に診療放射線技師という職業があることを教わり、調べてみたところ、マンモグラフィ（乳房Ｘ線撮影）などで女性診療放射線技師が必要とされていることを知りました。実際、母が女性の診療放射線技師にマンモグラフィをしてもらい安心して検査を受けることができたと聞き、女性が活躍できる職業だと思い、この仕事を選びました。

雲南市立病院で働こうと思ったきっかけは？

大学生のとき、初めて県外で独り暮らしをしたのですが、改めて故郷である島根が好きであることを実感し、島根で働きたいという気持ちが芽生えました。また、地域に寄り添った病院に就職したくこちらの病院を知り、雲南市立病院に就職しました。

働いてみた実感は？

とてもアットホームな職場であると感じています。まだいろいろな検査についてわからないことも多く、先輩方に教えてもらいながら仕事をしていますが、他職種の方とのコミュニケーションがとりやすく、とても雰囲気がよいです。また人手のいる検査では、医師や看護師が力を貸してくれます。患者さんの中には、お礼の声をかけてくださる方もいらっしゃいますので、とても嬉しく思っています。

今の部署ではどんな仕事をしていますか？

普段は、マンモグラフィや骨密度、一般レントゲン撮影などの検査を行っています。４月からは、時間外の救急外来の撮影でＣＴやＭＲＩも行っています。

やりがいはなんですか？

役に立てていると感じるときが一番嬉しいです。特に自分の撮影した画像で疾患が分かったときなどにやりがいを感じます。勤めて２年目でプレッシャーを感じることもありますが、ここ雲南の地域の方はあたたかい方々ばかりですので助かっています。

夜間待機をするようになってどうですか？

夜間の待機は日勤と違い、一人で考えながら検査や撮影を行っています。重症な患者さんがいらっしゃったときに臨機応変に対応できるかどうか、プレッシャーや不安を感じることもありますが、医師や看護師に協力をしてもらっていますので、とても助かっています。これからさらに経験を積んで、自信をつけていきたいです。

将来の目標は何ですか？

患者さんが安心して検査が受けられるような診療放射線技師になることです。特にマンモグラフィは毎日行っている業務なので、ただ撮影を行うだけではなく、より高度な技術を身につけられるよう、頑張っていきたいと考えています。

▼マンモグラフィ装置

▼ＣＴ装置

放射線科から

CTとMRI装置が新しくなります

放射線科では、日々さまざまな装置を用いて患者さんの検査、撮影を行っています。そこで今回は、新病院への移設に伴い新しくなる、CTとMRI装置の特徴を紹介します。

CT装置とは?

CT（コンピューター断層撮影）とは、X線を照射して体内の状態を検査する装置のことをいいます。

X線を360度全方向から照射することで、人体を輪切りにした画像を撮影することが可能です。

今回導入されるCT装置は、「64列マルチスライスCT」といいます。新しいCT装置には、以下4つの特徴がみられます。

新しい装置の特徴

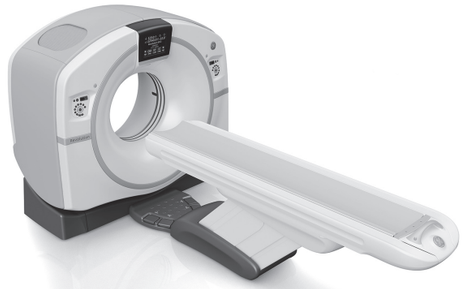
①画像の精度が向上し、多方向断層像や立体（3D）を撮影することができます。

②体内に金属がある場合でもきれいな画像に処理できます。

③撮影時間が短くなるため、息止めや安静保持といった苦痛が軽減されます。

④被ばく線量が低減され、表面線量被ばくは最大約40%低減します。

このような特徴から、安心して検査を受けてもらえることが可能になりました。



▲64列マルチスライスCT装置

MRI装置とは?

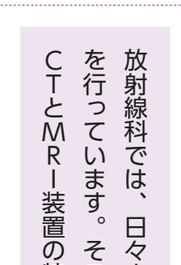
MRI（磁気共鳴画像）とは、強い磁石と電波を使って体内の状態を検査する装置のことを言います。

CT装置と比べ、放射線被ばくがなく、安心して検査を受けられるメリットがあります。一方で、

◆検査時間が長い
◆音が大きい
◆狭い筒に入る

といったデメリットもあり、閉所恐怖症等で検査が困難な方がいらっしゃいました。

今回新しく導入されるMRI「1.5TMRI」では、それまでのMRIの特徴を大きく補う仕様となっています。



＊検査を受けるときの注意点

妊娠している方、妊娠をしている可能性のある方は、CT検査が受けられないことがありますのであらかじめお知らせください。

新しい装置の特徴

①約半分の時間で、撮影が可能になります。

②工事現場のような大きい音が軽減され、静かな環境になります。

③装置の形状が筒型からドーナツ型となります。

④体の動きが原因でぶれたような画像もきれいな画像に処理できます。

以上の4つの点から、ストレスを感じることなく安心して検査を受けてもらえることが可能になりました。

▲1.5TMRI装置

＊検査を受けるときの注意点

心臓ペースメーカーや頭部クリップなど体内に金属が入っている方は、MRI検査が受けられないことがありますのであらかじめお知らせください。

放射線技術科　小林（こばやし）　久和（ひさかず）

病院建設の状況について

新本館棟の建設工事については、外観工事がほぼ終了し、工事用の足場が撤去され、新本館棟外観の全容が現れました。

１・２階はたたら製鉄をイメージした赤褐色、３階から上層は八雲の空をイメージした淡い白色で配色されています。

内装工事も、エントランスホール（正面玄関ホール）の足場がとれ、その全容が現れました。

ホールは２階までの吹き抜けとなっており、開放感のある空間となっています。

新本館棟は12月中には完成する予定です。いよいよ完成間近となりました。

エントランスホール（南面）

エントランスホール（北面）

平成29年10月の状況写真

『インフルエンザに伴う面会制限について』

当院では、インフルエンザ流行時期に合わせて、患者さんをお守りするため（感染予防と安全の確保）、入院中の患者さんにインフルエンザ罹患の報告があった時点で面会を制限させていただきますので、ご了承ください。